



二輪草だより

平成28年10月号
発行:二輪草センター

センターの活動予定 ◆11月9日(水) 医学生・研修医・女性医師の集い開催
◆11月11日(金) 看護学生と看護師の集い開催
◆11月下旬 二輪草プラン推進委員会議 二輪草だより11月号発行

医学生・研修医・女性医師の集い開催のお知らせ

『研修医生活あれこれ』

日時:平成28年11月9日(水)18:30~20:00

場所:臨床講義棟 臨床第3講義室

対象:医学生・研修医・医師

講演

「VisionとMissionに基づいたキャリアプランの考え方」

旭川医科大学病院 初期研修医 日比野 幸子先生

「旭川医療センター研修での学び」

旭川医療センター 初期研修医 荻尾 優里菜先生

「ADHDを疑われながら楽しく女医人生を送る一症例」

市立旭川病院 初期研修医 窪田 葵先生

「4年間をふり返り、今、思うこと」

旭川赤十字病院 血液腫瘍内科 下山 紗央莉先生

「大学病院での初期研修と市中病院での後期研修」

旭川厚生病院 循環器内科 豊嶋 更紗先生

◎参加無料。軽食を用意しておりますので、お気軽にご参加下さい。

◎参加ご希望の方は、二輪草センターまでご連絡下さい。

託児ご希望の方は、申込みの際にお申し出ください。(11月4日締切)

病児一時預かり室、バックアップナース、病児・病後児保育室、カウンセリング相談
【9月20日～10月19日までの利用状況】

病児一時預かり室	依頼回数	0回	利用回数	0回
バックアップナース	依頼回数	21回	稼働回数	21回
病児・病後児保育室	依頼回数	6回	利用回数	6回
カウンセリング相談			利用回数	4回

* 病児一時預り室、病児・病後児保育室は全職員・学生がご利用になれます

【お問い合わせ先】旭川医科大学 二輪草センター(復職・子育て・介護支援センター)

〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

TEL 0166-69-3240(内線3240) サンニンヨレ FAX 0166-69-3249

開設時間8時30分～17時15分 E-mail: nirinsou@asahikawa-med.ac.jp

ホームページ <http://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/nirinsou/>



看護学生と看護師の集い開催のお知らせ

日時:平成28年11月11日(金)12:00~12:45

場所:輸血部カンファレンスルーム

対象:看護学生・看護職員

看護職を続ける力の源!

講演

* 4階西ナースステーション

中川原 舞 看護師

* 光学診療部・放射線部ナースステーション

鈴木 智美 看護師

後輩への指導や看護実践を通して、キャリアアップしている看護師の体験談から看護職を続けてきたその源にあるパワーについて考える。

◎昼食をご持参の上、ご自由にご参加下さい

訪問看護ステーション看護師のための生涯学習支援研修終了報告

看護職キャリア支援 職場適応支援担当 浅利 尚子

この研修は、訪問看護に必要な知識・技術の再習得を支援すること、研修を通して大学病院と訪問看護ステーションの交流を図ることを目的に行っています。

今年度は、8月26日(金)・29日(月)の2日間の日程で開催し、旭川市内や富良野から5施設7名の参加があり、また、院内からも数名の聴講がありました。



1日目は、『食べる欲求を支えるケア～摂食・嚥下リハビリテーション～』について、言語聴覚士の中澤肇さんより講義がありました。嚥下について、イラストや検査の動画を用いて講義をしていただき、大変わかりやすい資料と内容でした。実際に飲み物やゼリーを使用して摂食・嚥下障害の体験をすることで、摂食・嚥下障害患者のイメージ化につながったと

思います。最近では、「老嚥」という健常高齢者における嚥下機能低下をさす概念も使われるようになってきているとのことでした。超高齢社会が進み、老嚥の方が増え、摂食・嚥下障害の患者も増えてくることが予測されることから、早期からの介入が求められると感じました。

2日目は、『排泄ケアの基礎知識～コンチネンスケア 排便編～』について、皮膚・排泄ケア認定看護師の本間美穂副看護師長より講義がありました。排便のメカニズムから排便への具体的な介入方法、排泄障害に伴う皮膚障害の原因と対処方法、認知症の方への排便コントロールについて講義がありました。在宅看護では排便コントロールが必要な患者は、高齢者、寝たきりの患者、終末期の患者、認知症の患者、精神疾患を持った患者、神経難病疾患の患者など、多くの方が対象となっているとのことでした。訪問看護師は一人で、限られた時間内にアセスメントをして対応することが迫られており、利用者一人一人が排便コントロールへの思いも違うため、日々難しさを感じていると話されていました。具体的な症例を共有し、参加者全員で考えることができました。

在宅では、常に看護師は一人で観察・アセスメント・対応が求められること、個別性にそった対応に苦慮していることを知ることができました。今後も広い視野を持ち、在宅医療を考え、共に学ぶことができるような研修会にしたいと考えています。

